

株式会社 トウトウモロウ

〒815-0082 福岡県福岡市南区大楠3-28-33
TEL 092-525-1411 HP <https://totomorrow.co.jp/>

業 種 クリーニング業
従業員数 16名
資 本 金 3,200万円

事業内容

デリバリー型宅配クリーニング、パートナーは全国に。

1993年創業。2000年に株式会社化。
市街地の後発企業として顧客利便性を追究し、訪問型デリバリークリーニング、ネット受注、特殊技術(染み抜き、靴修理)など多様なサービスで差別化したことで、近年はパートナー店舗を増やすなど事業を拡大しており、同業者との連携を深め、対応している。



改善成果のポイント

訪問支援回数 | 23回 (支援期間: 10カ月)

- 作業環境整備とリードタイム管理で質・量・コストを大きく改善
- ワイシャツアイロンプレス機の導入と手順書の充実で生産性を向上



Q どんな困りごと(課題)がありましたか?

市中心部のオフィス、店舗、病院などから利便性を評価頂いていますが、やはり仕上がり品質と短納期が命です。

洗濯(ドライ/水洗い)を機械で行っているのに対し、後工程のアイロンプレス~仕上げ包装は主に手作業です。迅速でいいいで経験豊富な各工程リーダーの下、外国人留学生在が誠実、熱心に作業を行っていますが、効率が上がりません。また、ここ数年、高負荷が常態化し、急ぎよ提携先に外注することもあり、収益性を更に低下させています。

収益改善に向けて、販管費の圧縮を進めてきましたが、やはり本質は、作業の効率化と能力など生産性にあると考えました。

生産、作業に関する数字はいろいろ取ってありますが、アクションには至っていません。ネックはアイロンプレス機の老朽では?と思いましたが、まず一度、プロの目で見てもらいアドバイスを得るべく、支援を申込みました。

課題 ①②



従来のプレス機での作業



改善前のプレス作業区域前

Q 改善の取組み内容を教えてください

手狭な作業スペースに物が溢れ、作業効率を阻害していたので、不要なものは片付ける「4S」*1、置き場所や量を定める「5定」*2の活動を進め、作業しやすい環境を整えました。

次に工程ごとに生産能力や作業時間を分析したところ、特にアイロンプレス工程の“アイロンじわ”発生によるやり直し作業が多いことが分かりました。

しわ発生率と箇所が、襟・袖・前立てに集中していたので、これらを重点にベテランの作業をもとに「ビジュアル標準作業手順書」「品質限度見本」を作り、皆で共有、練習して未然防止を進めました。

これらの改善後もなお、ワイシャツアイロンプレスがネック工程にいたので高速、操作性、保全性の高い新型プレス機を導入。生産能力が上がり、アイロンプレス~仕上げ包装全体の生産性と生産能力とを向上しました。

*1 4S「整理・整頓・清潔・清掃」 *2 5定「定置・定量・定時・定品・定高」



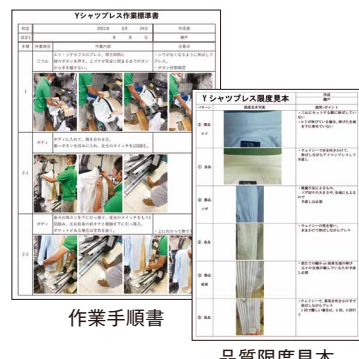
改善後のプレス作業区域前

Q 取組んで良くなった点を教えてください

メインの効果 (改善点)

ワイシャツアイロンしわの発生によるやり直しが40%から20%と約1/2に減少しました。

元来、誠実で熱心なメンバーがビジュアル作業マニュアルに基づいて作業習熟したこと、新型プレス機を導入したことで、上記品質向上に加え、当初のひとりあたり20枚/時間の処理速度が27枚に向上しベテラン(30枚/H)に迫るほどになりました。故障時間もほぼゼロになりました。また、手作業工程内の滞留がなくなり、スムーズに作業が進むようになりました。



作業手順書

品質限度見本

副次効果

現場がスッキリしたことで、動きやすく、変化に気が付きやすく、お互いに声を掛けやすくなりました。スペース効率だけでなく、エネルギー効率も高まり、快適な作業環境になりました。高負荷時の多残業からも解放され、笑顔が増えました。

今後の目標

閑散期・繁忙期の作業時間差の縮小が次の課題です。
工程ごとの負荷を早く、定量的に予測し、社内平準化、早めに同業者応援要請ができるよう、受発注、生産管理のDX化について検討を始めています。



導入した新型ワイシャツアイロンプレス機

企業様の声

以前は感覚的に業務に取り組んでいたリーダーやスタッフが、今回の生産性向上の取組みにより、現場を数字で捉え管理する意識が生まれました。また、5Sの取組みによる業務のムダの削減と安全性の確保など職場環境をより大切にするようになりました。更なる改善を、次は自分たちで進めていきたいと思っています。



株式会社 トウトウモロウ
リーダー
瀬戸 豊 様

生産性アドバイザーから一言

外部の人間から現場を見られることに、スタッフの皆さんに戸惑いがありましたので、ていねいに少しずつ提案し、作業がやりやすくなることを実感して頂くようにしました。気づきをお伝えし、現地現物、原理原則で見て考える習慣が身に付くと、だんだん自信が付き、最終的に自発的に改善が進むようになり、笑顔を見せて下さるようになりました。



生産性アドバイザー
中村 治